

2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業

入院中や療養中の
学習支援のための

ICTを用いた
支援者育成事業報告書



認定NPO法人ラ・ファミリエ



La famille

～認定NPO法人ラ・ファミリエ～

地域子どものくらし保健室

この冊子は2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業にて作製いたしました

はじめに

立秋の候、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素よりラ・ファミリエへのご協力とご支援をいただき、ありがとうございます。

この度、令和2年度ドコモ市民団体活動助成事業を受託し、「入院や療養中の学習支援のためのICTを活用した支援者育成事業」に取り組んでまいりました。

当法人の活動拠点である愛媛県では、令和元年度の病気による長期欠席小中学生は740名であり、他の都道府県と比して高い状況が続いています。しかし、県内には院内学級のある病院が4病院であり、中予地方に3病院、南予地方に1病院のみ、東予地方にはありません。内訳としては小学生対象が4病院、中学生対象は3病院のみです。また、復学の為に自宅で療養中の子どもや復学したものの学習についていけず、不登校になり、保護者と共に当団体に相談に来られる子も少なくありません。

本来であれば、公教育による早急な学習機会の保障が必要ですが、公教育の整備を待ち続けるだけでなく、個別の教育的ニーズに応じた支援を県内で行えるよう、学習指導や病気療養児の心理・生理に関する専門性のあるスタッフや教育支援者を増やす必要があります。

新型コロナウイルス感染状況の収束の見通しがたたない現状を踏まえると、感染症流行期の学習支援や余暇支援にも対応できる、ICTを活用した遠隔支援を可能とする人材の育成・物的資源の確保が急務です。よって、ICTを活用して学習支援ができる学習支援ボランティアの研修に力を入れることとなりました。

これらの活動は、多くのボランティアの方々をはじめ、多くの職種の方々に支えられて実現することができています。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

子どもたちの明日がより良いものになるように、スタッフ一同、真摯に取り組んで参る所存ですので、これからも、ご指導・ご鞭撻・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和3年8月吉日
認定 NPO 法人ラ・ファミリエ
理事長 檜垣 高史

目次

はじめに 1
目次 2

第1章 ラ・ファミリエの学習支援体制について

ラ・ファミリエの学習支援について

第2章 令和2年度学習支援ボランティア研修会について

学習支援ボランティア研修会の概要 3
各回の研修内容と受講生のことば
ループリック評価について

第3章 学習支援ボランティアの実施

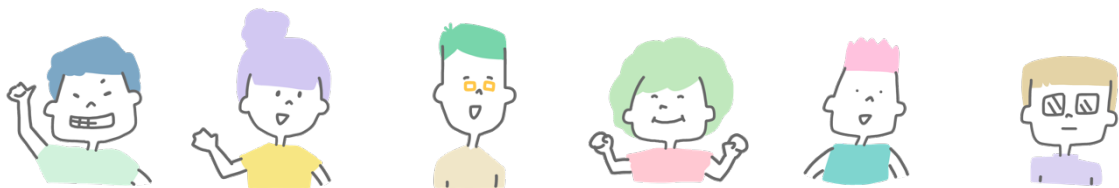
ボランティアによる学習支援について 101

第4章 オンライン学習支援の経験談

リーフレット：オンライン学習支援の経験談の作成 101

編集後記

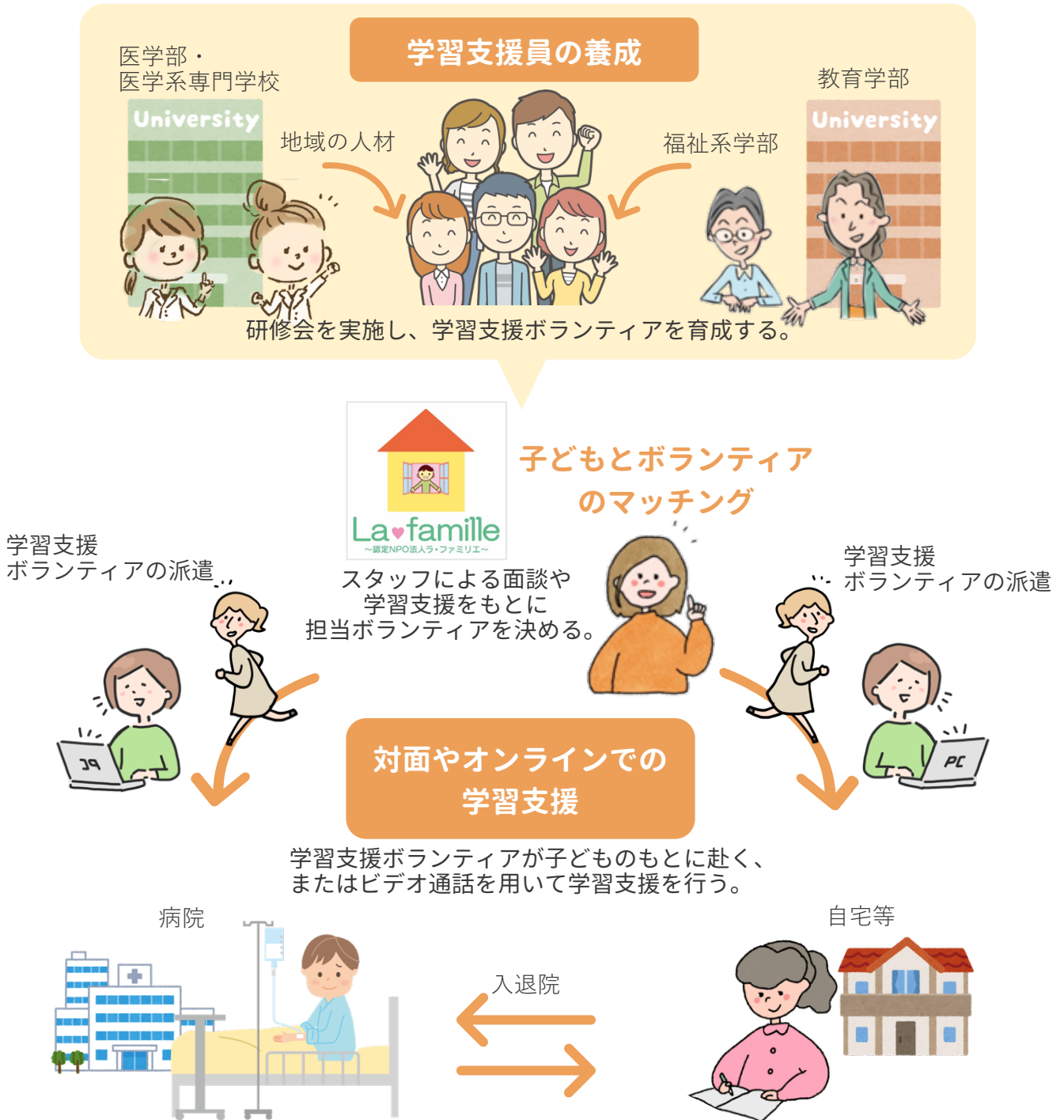
おわりに 114



第1章 ラ・ファミリエの学習支援体制について

1-1 学習支援の実施体制図

- ラ・ファミリエでは愛媛県と松山市から委託を受けている「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の一環として、学習支援を実施しています。



第2章 令和2年度学習支援ボランティア研修会について

2-1 学習支援ボランティア研修会の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Google クラウドルームを用いたオンラインでの開催としました。
- 全5回の研修で構成し、各回終了後、受講生にレポート課題を提出してもらうことで修了としました。第3回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。
- 研修会修了前後でループリック評価を実施し、はじめの自己評価や研修終了後の到達目標を考えました。
- 医学部や教育学部、福祉系専攻の大学生や医療系の専門学校生、社会人など合計28名が受講しました。

研修会のガイダンス動画が
こちらのURLから見られます。▶



令和2年度 学習支援ボランティア研修会 開催要領

1. 内容
本研修は、主にオンライン講座サービス Google クラウドルームを通じて開講します。ただし、第4回、第5回は必要に応じて、ビデオ会議システムでの講義を導入いたします。

ループリック評価 → 第1回・第2回・第3回 動画講義の視聴、レポートの提出 → 第4回 研修会の参加 レポートの提出 → 第5回 成果報告会 ループリック評価

個人面談 → 学習支援ボランティア実習

2. カリキュラム (予定) (全5回) ※状況により、変更させていただく場合がございます。

回	形態	実施・動画配信日時	課題 ※初日	内容	講師
1	動画	10/26	11/20	病気療養児の学習支援の基礎	愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎本穂子 先生
				医学的知識の基礎	医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック 大塚佳子 先生
2	動画	11/21	12/20	病児をとりまく支援 (小児慢性特定疾病完備等自立支援事業)	認定NPO法人ラ・ファミリエ 理事 自立支援員 西勝子
				ICT機器を用いた学習支援	認定NPO法人ラ・ファミリエ 自立支援員 越智彰帆
3	動画	1/21	2/20	病児の発達課題を考える 余暇の支援	愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎本穂子 先生
4	オンラインでの公開講座	4/24	5/9	公開講座 「ストレス時代のこどもの学び ～学ぶことは生きること～」	昭和大学大学院保健医療学研究所 准教授 さいかち学級担当 副島 賢和 先生
5	オンラインによる開催	6/19	7/20	成果報告会・情報交換会	愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎本穂子 先生

*期間中に、オンラインでの個人面談を実施する予定です。

2020年度ドコモ市民団体活動助成事業

入院中の子って勉強どうしてるの？
病気の子の気持ちや支援を学びたい
学習支援って何だろう？
子どもたちの力になりたい

学習支援ボランティア研修会

＼ オンラインで開催いたします ／

ラ・ファミリエでは、病気による入院や自宅療養などにより、学習が遅れがちな子どもたちに対する学習支援や、その支援者を育成する研修会を実施しています。

研修内容

全6回 (12コマ程度)

- ・ 「病気療養児の学習支援について」
- ・ 「病気療養児の発達課題」
- ・ 「院内学級でのかわり」
- ・ 「きょうだいの思いときょうだい支援」 など

受講方法

- ・ 配信している研修動画を視聴して学習を進める。
- ・ 各回ごとにレポート課題を提出。

※ 学習支援ボランティアへの参加を希望する受講生の方は、スタッフとの個人面談を実施します。

お問い合わせ

認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どもくらし保健室
〒790-0813 愛媛県松山市番町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL / FAX : 089-916-6035
E-mail : lafamilie@cc-sodan.jp

ラファミリエ
 Facebookにて最新情報を発信しています

▲ R2年度学習支援ボランティア研修会の開催要項

▲ 学習支援ボランティア研修会のチラシ

2-2 各回の研修内容と受講生のことば

第1回研修会

(講義内容)

- 「病気療養児の学習支援」愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎木暢子先生
- 「病気の子どもの配慮について」「感染制御の基本」「小児がんについて」
医療法人ゆうの森たんぼぼクリニック 大藤佳子先生

(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座



(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「学習支援の活動が与える影響が思ったよりずっと大きいことを学びました」
- 「学習支援の時間が、病気を忘れられる時間になるよう、気をつける点やアイズブレイクにおいて大切なことなどをもっと知りたいなと思いました」
- 「ボランティアに興味があるものの、自分ができるか自信がなかったのですが、支援の流れを知ることができ、少し安心しました」
- 「“何がしたい？”という問いかけの大事さを知りました。自分自身が学習支援をする中で“何がしてみたい？”などの会話ができる機会があれば、普段は家族や医療関係者の人に話せないようなことも聞いてあげられるように、関係性を築いていきたいな、と思いました」
- 「自分自身の体調管理や手洗いうがい消毒、マスクなどの感染予防対策など、“自分が病気をもっているかもしれない”または“病気をもらってしまうかもしれない”という意識で行動することが必要だとわかりました」

病気療養児の学習支援

愛媛大学大学院教育学研究科
榎木暢子

▲ 動画教材の表紙①

感染制御の基本

たんぼぼクリニック
大藤 佳子

▲ 動画教材の表紙②

第2回研修会

(講義内容)

- 「病児を取り巻く支援」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事・自立支援員 西朋子
- 「学習支援の実際の流れ」「ICT 機器を用いた学習支援」
認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 自立支援員 越智彩帆

(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座

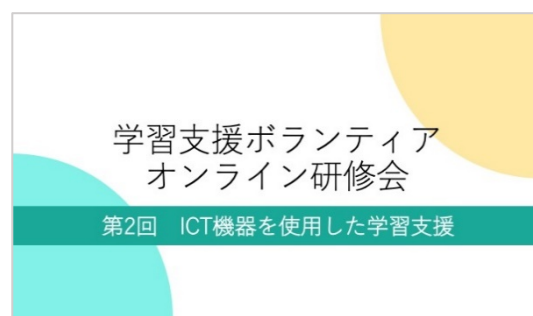


(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「病気のある子どもたちやその家族が抱える悩みや不安は、さまざまであることがわかった」
- 「病気のある子ども達自身が、自分の病気について説明できるようになるための取組は、周りの理解を得るためにも、将来のためにも、必要だと思いました」
- 「イベントでの子どもたちの感想が印象で、“今は話したくない”、“親に話せないことが話せた”、“自分に気付けた”、“元気な身体に生まれたかった”など、さまざまな思いを抱えて生活していると知った。今後、学習支援をする場合に、このような思いを抱えている可能性があることも覚えておきたいです」
- 「実際の学習支援の方法について、これまでのボランティアの方々が工夫していることを知れて、大変勉強になりました」
- 「コロナ禍でオンライン活動になることが多いが、オンラインでの会話は相手の様子を知ることが難しいなどのデメリットもある。講義で説明されていたオンライン学習支援でのコツを意識して行いたいです」



▲ 動画教材の表紙③



▲ 動画教材の表紙④

第3回研修会

(講義内容)

- 「病気の子どもの発達課題を考える」「子どもの余暇について」
愛媛大学大学院教育学研究科 教授 檜木暢子先生

(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座

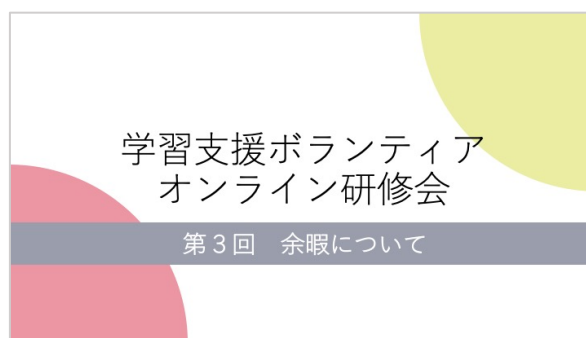


(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「学習の遅れを取り戻すことはもちろん目的の1つですが、精神面なども含めて、子どもたちが学習を通して全体的に発達することができるよう、子どもたちが子どもらしく生活していくことができるようにすることが重要な目的であることを知りました」
- 「子どもは一人ひとり違って、同じ病気だからといってその子ども達が同じ気持ちを抱えているわけではないため、子どもそれぞれに応じた関わりをしていくことが大切だな、と思いました」
- 「さまざまな工夫が施された文房具があることや、ハイタッチなどのスキンシップを行うことで、達成感を味わえる子どもも多くいること、幼児期では病気を自分への罰だと捉える子どももいる、などということを初めて知りました」



◀ 講義で例に挙げられた文房具の1つ
「魔法の定規」クロスボウジャパン



▲ 動画教材の表紙⑤

第4回研修会

(講義内容)

- 公開講座「ストレス時代の子どもの学び ～学ぶことは生きること～」
昭和大学大学院保健医療学研究科 副島賢和先生
- 講義 60分、学習支援ボランティア研修会受講生対象の質疑応答 60分

(講義方法)

- Zoomを用いた同期型オンライン研修会

(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「副島先生の経験談がふんだんに盛り込まれており、特にお子さんの発した言葉に、はっとさせられました」
- 「質疑応答の時間では、私たちが普段感じていることや悩みなどを副島先生が答えてくださりました。先生はいつでも子どもたちの立場に立って物事を考えているのだということを感じました」
- 「子どもと初めて会うときは、まず子どもにとって安心・安全な存在だということ伝えることが大切だとわかりました」
- 「何かしらの不安や辛い気持ちを抱えている子どもたちの気持ちを少しでも軽くできる、“あの人に話したい”、“あの人に話したら何となく気持ちが楽になった”と思ってもらえるような存在になりたいな、と思いました」



▲ 質疑応答の様子

2020年度ドコモ市民活動団体助成事業

副島賢和先生講演会

ストレス時代の子どもの学び
～学ぶことは生きること～

2021年4月24日(土) 13:00~14:30 Web開催

院内学級のない病院にて長期療養や、退院後の復学のために自宅にて療養などにより、教育から長期離脱している子どもたち、また長期療養後、進学をしたものの学習に遅れがちな子どもたち、遠隔地の子どもたちなど、病気により特別な教育的ニーズが生じている子どもたちの教育支援者、学習ボランティアの育成することを目的とした研修会の公開講座です。

●公開講座
13:00~14:00
●質疑応答(ボランティア対象)
14:00~14:30

講師 准教授 副島 賢和先生 (昭和大学大学院保健医療学研究科)
受講対象 保健師、看護師等の小児慢性疾患に関わる医療関係者、子どもに関わるNPO法人、教育関係者、親の会、学生等
定員 100名 受講料無料

講師プロフィール
副島 賢和
モスモス大学
1966年 福岡県生まれ。
1989年 都立文科大学卒業後東京都立小学校教員として採用され、25年間普通学級担任として勤務。
1999年 東京都の派遣研修で在職のまま東京学芸大学大学院にて心理学を学ぶ。
2006年 品川区立清水小学校さいか学級(昭和大学病院内)を担任。
2014年 現職、学校心理士、小林正幸氏(東京学芸大学大学院教授)らと共に「みどりの東北元気キャンプ」を行う。
また、そのワークショップとして「ハンターキャッチャーゲーム」(米国の活動)に参加している。

お申し込みはこちらのフォームよりお願いします
<https://forms.gle/WDrW2wqmFYwmFmET7>

●研修内容 全6回(12コマ程度)
●受講方法 配信している研修動画を視聴して学習をすすめる。
各回ごとにレポートを提出する。
※学習支援ボランティアに興味のある方はお問い合わせください。

お問い合わせ先
TEL/FAX:089-916-6035
E-mail: lafamille@cc-sodan.jp
http://www.job-famille.org
松山市豊町4丁目7-2 カネビル1F

La famille
～市民NPO法人ラファミリエ～
地域子どもをくらし応援

▲ 副島先生講演会チラシ

第5回研修会

(講義内容)

- 「成果報告会」
講師：愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎木暢子先生
ファシリテーター：認定NPO法人ラ・ファミリエ 西朋子・越智彩帆
- 受講生による「学習支援ボランティア研修会を通して学んだこと」についての発表と質疑応答・意見交換

(講義方法)

- Zoomを用いた同期型オンライン研修会



(受講生の成果報告資料) 一部抜粋

気を付けていたこと

- 体調（授業初めと終わりに聞いている、途中で声掛けすること）
- 楽しく理解しやすく勉強（学習する内容の的を絞る）
- クイズを入れて単語チェック
- 単語、文法を記憶に残りやすく
Ex.いささかなり（ほんの少し）
→いささか先生の家までほんの少し

単語チェック

① あへん	あつちやうもない
② あかさたな	あつちやうもない
③ あかきよまな	あつちやうもない
④ あかきよまな	あつちやうもない
⑤ あかきよまな	あつちやうもない
⑥ あかきよまな	あつちやうもない
⑦ あかきよまな	あつちやうもない
⑧ あかきよまな	あつちやうもない
⑨ あかきよまな	あつちやうもない
⑩ あかきよまな	あつちやうもない
⑪ あかきよまな	あつちやうもない
⑫ あかきよまな	あつちやうもない
⑬ あかきよまな	あつちやうもない
⑭ あかきよまな	あつちやうもない
⑮ あかきよまな	あつちやうもない
⑯ あかきよまな	あつちやうもない
⑰ あかきよまな	あつちやうもない
⑱ あかきよまな	あつちやうもない
⑲ あかきよまな	あつちやうもない
⑳ あかきよまな	あつちやうもない

▲ 受講生の発表資料の一部抜粋①

④ 学習支援中に感じたこと、考えたこと

- オンラインでの学習支援問題（声が聞き取りづらい、画面共有等に手間取る）
- 事前準備の大切さ
- やる気をあげるのが難しい
- 勉強以外でのコミュニケーション、社会的なルールに関して



▲ 受講生の発表資料の一部抜粋②

2-3 ルーブリック評価について

ルーブリック評価について

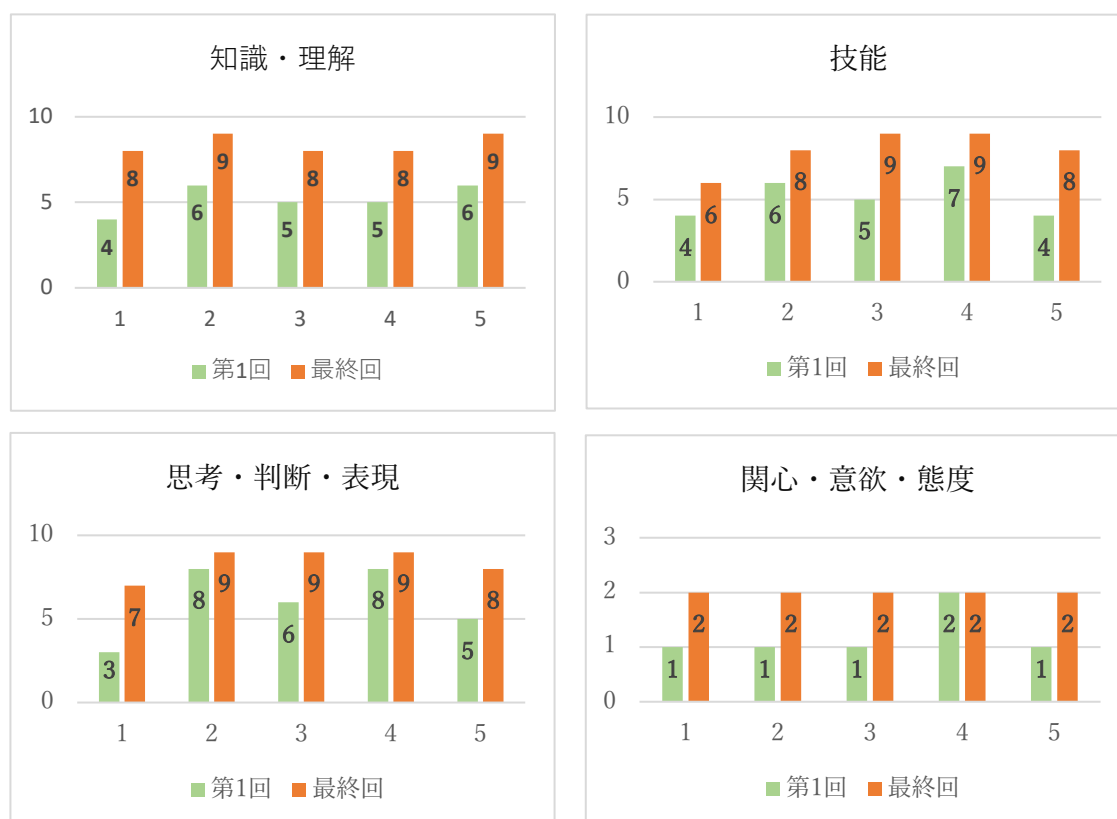
- ルーブリック評価とは、学習の達成度を評価するためのものです。
- 本研修会では、山下ら（2016）¹が作成した「入院児への余暇・学習支援ルーブリック評価」を使用しました。



実施方法

- 研修受講前および受講後にルーブリック評価を実施しました。両方のルーブリック評価が揃っている受講生5名のものを集計しました。「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」は各3項目で、ABCの3段階評価としました。「関心・意欲・態度」は10項目中当てはまるものの項目の数を合計しA=9~10項目、B=6~8項目、C=0~5項目としました。全て、A=3点、B=2点、C=1点に換算しました。

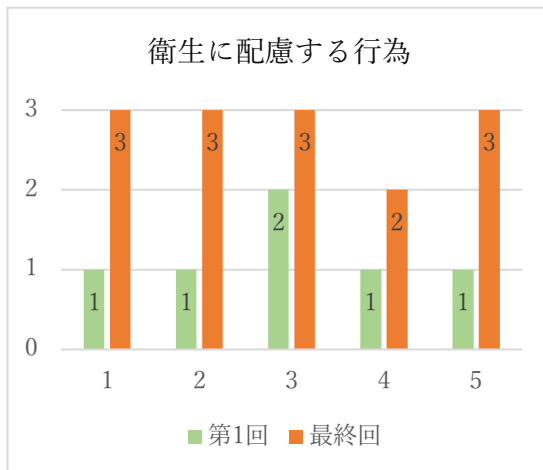
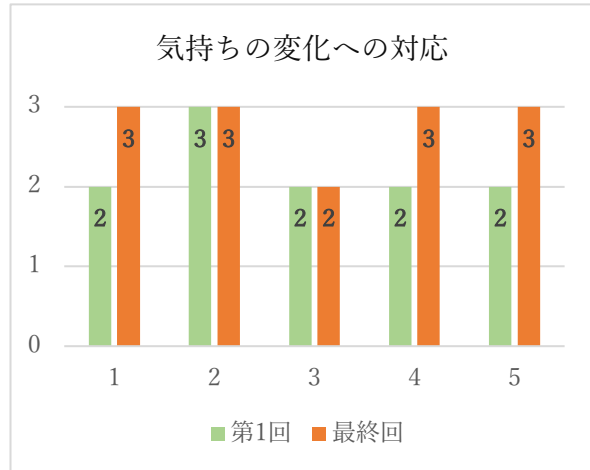
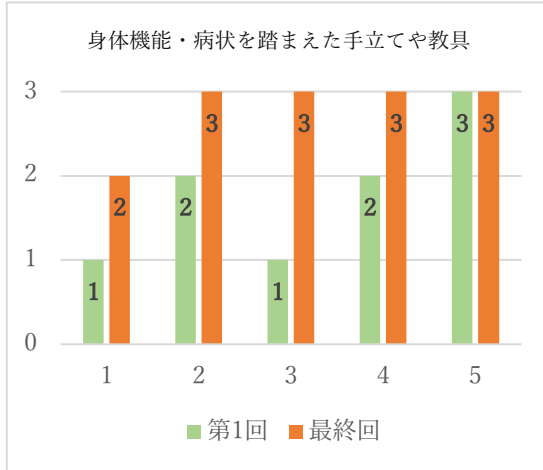
受講生別 各観点における変化



¹ 山下祥代・榎木暢子・太田貴仁・苅田知則・中野広輔，入院児への余暇・学習支援における学生ボランティアへの期待に関する研究，2016,8.30, Journal of Inclusive Education VOL.1, 54-66.

受講生別 細項目における変化

<知識技能>

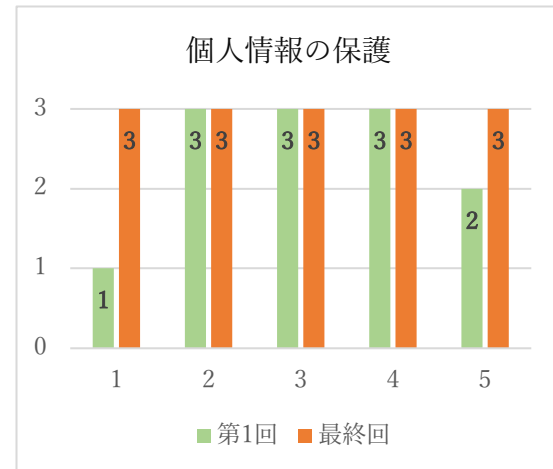
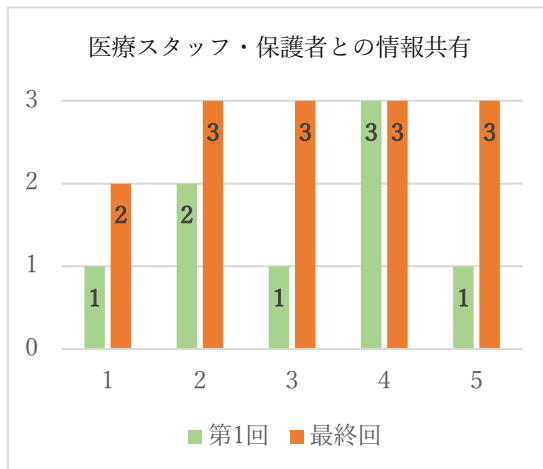


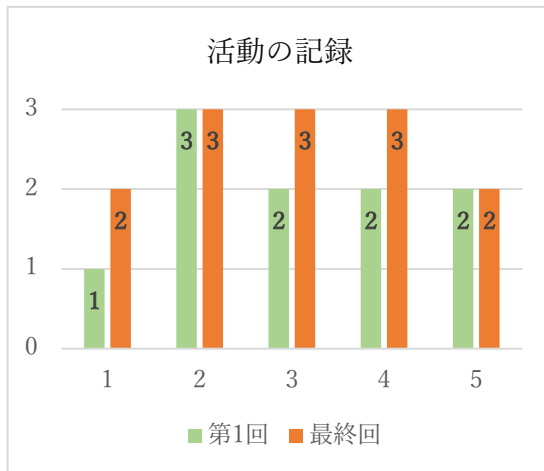
知識技能のどの観点も、満点で自己評価をしている受講生が多く、研修を通して必要な知識等を身に付けることができたといえます。

特に衛生に関する行為については、伸び率が高く、コロナ禍でも十分な配慮をして活動できる人材が育成できました。



<思考・判断・表現>



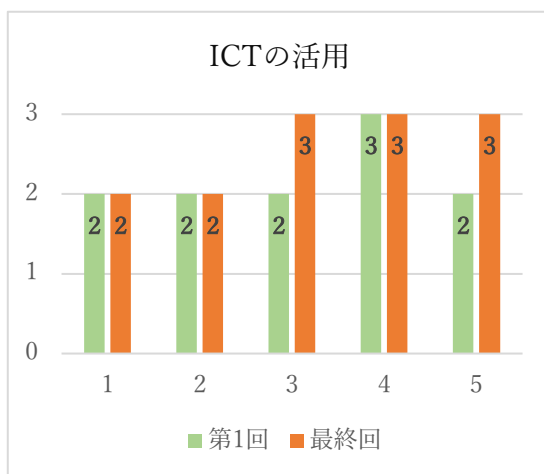
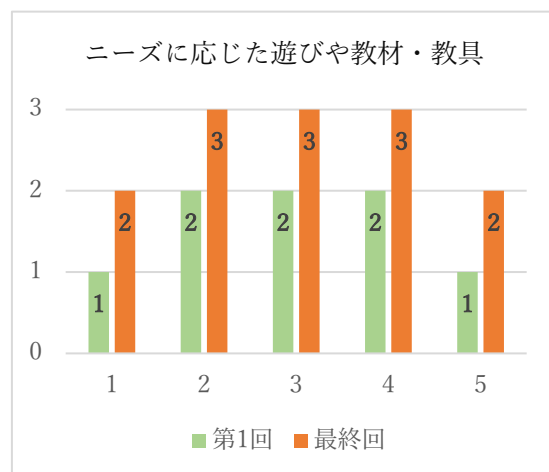
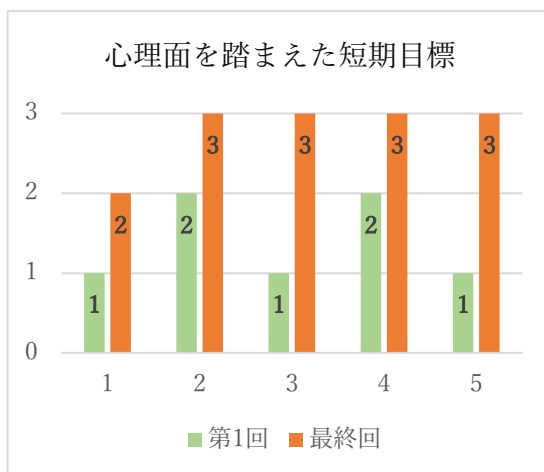


思考・判断・表現のどの観点も、満点で自己評価をしている受講生が多く、研修を通して必要な知識等を身に付けることができましたといえます。

子どもをサポートする人たちとの情報共有や毎回の記録の方法など、子どもを支援する上で必要なことが身に付いたことがわかります。



<技能>



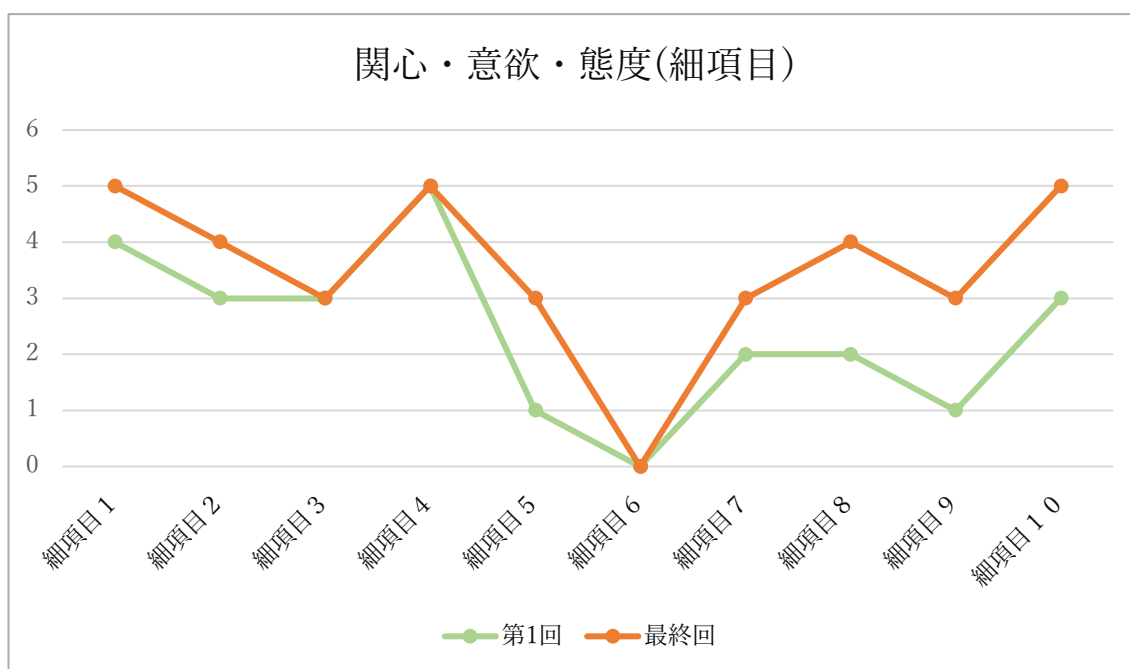
肯定的な自己評価をした受講生が多いですが、ICTの活用において、実際のオンラインでの学習支援を経験した受講生と経験しなかった受講生では、自己評価に違いが見られました。

ICTについては、実際の学習支援活動やロールプレイングなど、経験しながらその活用方法を学んでいく必要があると示唆されました。

<関心・意欲・態度>

表1 関心・意欲・態度の細項目一覧

細項目1	言葉や行動の意味を人に聞いて理解
細項目2	ことばや行動の意味を調べて理解
細項目3	知識を活動内容と関連付ける
細項目4	知識を基に関わり方を考えて活動
細項目5	教育関係者から指導助言を受ける機会に参加
細項目6	教育関係者に指導助言を依頼
細項目7	自分なりにまとめて記録
細項目8	改善点や次回の展開を考えようとする
細項目9	周囲の人から考え方を取り入れる
細項目10	ボランティア参加者の考え方を取り入れる



全体的に数値に上昇が見られ、研修会を通して、受講生の関心・意欲・態度が向上したといえます。中でも、指導助言を受ける機会に参加すること、改善点や次回の展開を考えようとする、周囲の人・ボランティア参加者の考え方を取り入れることは伸び率が高く、より良い方法を学ぼうとする態度が養われたことがわかります。

ただし、教育関係者に指導助言を依頼することができるのは、研修後も0人という結果でした。あまり関係ができていない教育関係者にボランティアが自らお願いして話を伺うことは、ハードルが高いのではないかと考えられます。今後は、ボランティアと教育関係者等が情報交換ができる場を設けることで、お互いの関係づくりの一助としたいと考えています。

第3章 学習支援ボランティアの実施

3-1 ボランティアによる学習支援の実施について

- 第3回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。

- 2020年9月～2021年8月までの学習支援ボランティア実施状況

小学生が対象の学習支援

- ◇ 1名。週1～3回オンラインでの学習支援を実施しました。

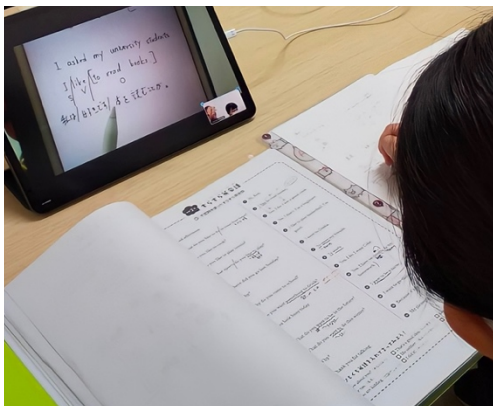
中学生が対象の学習支援

- ◇ 合計2名。週1回対面での学習支援が1名、週1回オンラインでの学習支援が1名でした。

高校生が対象の学習支援

- ◇ 合計2名。週4回対面での学習支援が1名、週1回オンラインでの学習支援が1名でした。

- 学習支援後は、報告書を提出していた
だき、ラ・ファミリエや保護者等との情
報共有をしました。



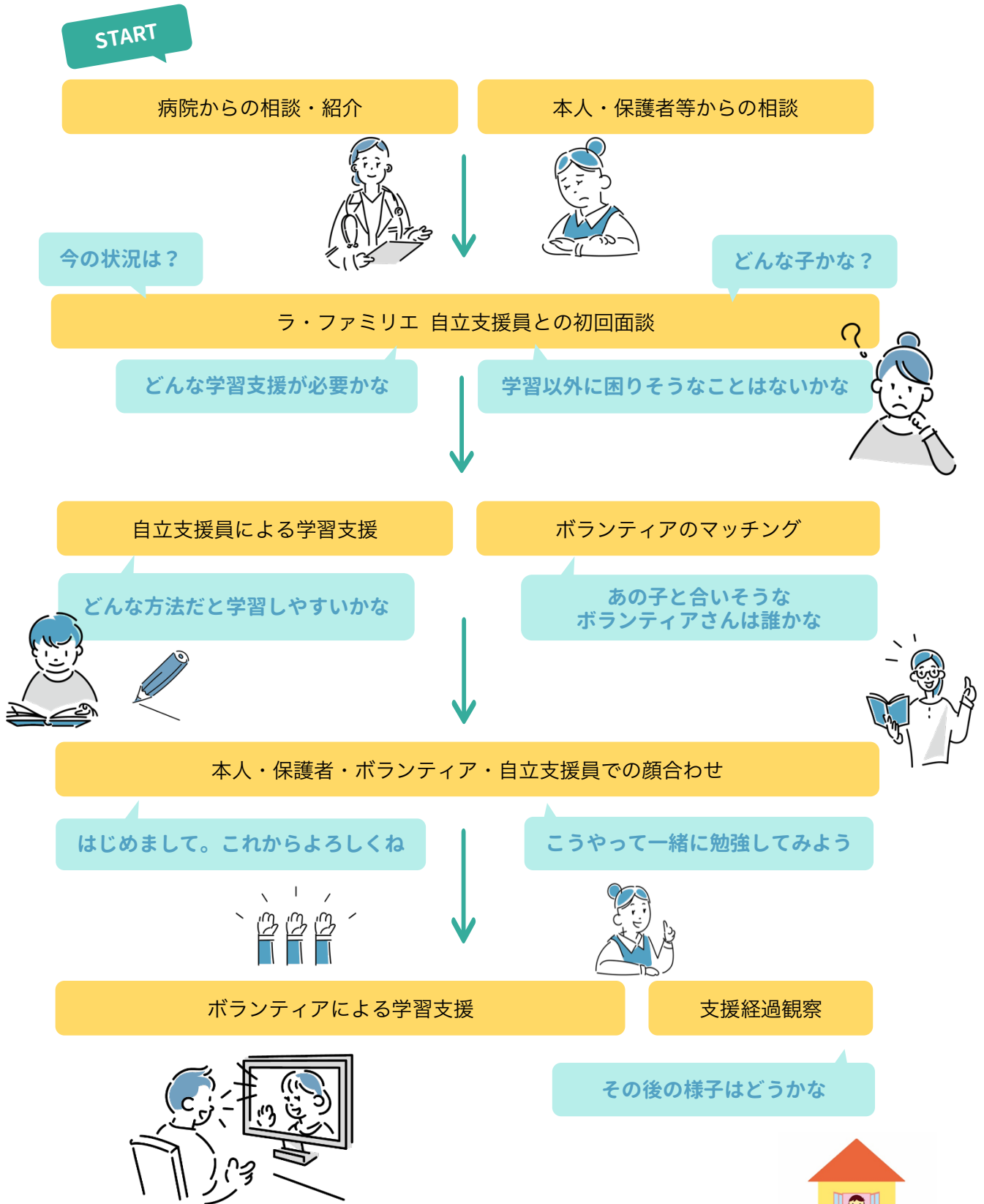
▲ オンライン学習支援の様子

活動日時	1月4日(月) 14:20~15:20
参加者	
場所	ZOOMにて
概要	冬休みの宿題、社会、絵しりとり
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 冬休みの宿題 <ul style="list-style-type: none"> ・算数の割り算の宿題があったようで、一緒にやりました。 ・あまりのでる割り算の筆算だったのですが、とてもすらすらと解けており、ほとんど間違えることもなくできました。 ● 社会 <ul style="list-style-type: none"> ・「ビノバ社会4(県庁所在地)」をしました。 ・10問中10問全て正解でした。 ・アイテムもゲットすることができ、二人でとても喜びました。 ● 絵しりとり <ul style="list-style-type: none"> ・いつもよりも勉強の量が多く、少しの時間でしたが絵しりとりをしました。 ・わいわい言いながらとても楽しくできました。 ● お絵かき <ul style="list-style-type: none"> ・初めに私の誕生日プレゼントを絵で紹介してもらい、次に、ちゃんが福袋の中身を紹介してくれました。

▲ 学習支援報告書の例

3-2 ボランティアによる学習支援の実施について

- ラ・ファミリエにおける学習支援ボランティア開始までの流れを図で示しています。



第4章 オンライン学習支援の経験談

4-1 リーフレット：オンライン学習支援の経験談の作成

- 学習支援ボランティアをする上で、オンラインでの学習支援の方法やコツ・工夫が知りたいという声が多く挙がっていました。
- そこで、ICT機器を用いた、オンラインでの学習支援をしているボランティア2名に、「オンラインでの学習支援を実施する上で、気を付けていること・コツ」を聞き、その内容を、リーフレットにまとめました。

「ドコモ市民団体助成事業」からの助成金により作成しました。

オンライン学習支援って意外と難しい！

オンライン学習支援とは
 ラ・ファミリエで実施している学習支援には、実際に対象のお子さんにお会いして実施する対面の学習支援と、遠隔地や感染症防止のためビデオ通話を用いた遠隔での学習支援の2種類があります。

対面の学習支援

- ✓実際に会って話すことができるので安心感がある。
- ✓対象児の様子の把握、紙の教材の共有がしやすい。
- ✓感染症対策に留意する必要がある。

オンラインの学習支援

- ✓遠隔地での実施や感染症対策中などに対応しやすい。
- ✓お互いの状況の把握にコツがある。
- ✓通信環境や端末などの整備が必要。

おすすめのビデオ通話アプリ

ビデオ通話アプリを使用して、お互いの顔や教材などを映し合いながら学習を進めていきます。

「LINE」

- ✓複数人の通話が無料。
- ✓同じアプリ内で写真のやりとりができる。
- ✓多くの人が使用している。
- ✓アカウントが必要。

「Zoom」

- ✓画面の共有ができる。
- ✓相手のZOOMアカウントがいらぬ。
- ✓毎回パスワードとIDを入力する必要がある。
- ✓複数人通話は有料。

— 「LINE」を使っているボランティアAさん —

▼LINEの通話の「ビデオあり」で通話を開始する。

教材の共有

- ◀対象のお子さんに教材の写真を持って、LINEで送ってもらう。
- ▲学習支援中の解説メモを写真に撮って、LINEで送って記録に残す。

— 「Zoom」を使っているボランティアBさん —

▼「ビデオあり」で電話を開始する。

▼対象のお子さんが持っている教材を使うときは、ビデオに映してもらい、スクリーンショットを撮って使う。

画面共有機能の活用

ボランティア側の画面を、対象のお子さん側の画面にも映すことができます。

- ▲メモに解説を書きながら説明。
- ▲分からないことを一緒に調べる。

スクショした写真にペン機能で書き込む▶

— おすすめの学習アプリ —

「算数忍者」 たし算ひき算

「小学算数」 図形や筆算などをアニメーションで解説

「まなちゃん」 小学漢字の読み書き

「NHK for school」 NHKが放送した学習番組を視聴できる。小学校～高校生対象。

「Photomath」 数学の問題を撮ると、計算式や答えを示してくれる。

「英単語アプリmikan」 英単語を4択テストで学習することができる。調べるとたくさんあります。試しつつ選んでいきましょう。

「ピノバ」シリーズ 小学校1～6年生の国算理社英に対応。

◀リーフレット(表)

経験者に聞きました！
オンライン学習支援のコツは？
オンラインの学習支援をしたことがあるボランティアさんに、
気をつけていたことやうまくいった工夫を教えてくださいました。

こちらから
いろんな話をして
アイスブレイク

相手の様子が読み取りづらいのは、
お互いさま。
積極的に話しかけましょう。

**端的な解説を
心がける**

▲ 解説は、なるべく簡単に、
噛み砕いて。

通常より
ハキハキ話す

▲ 画面ごしでも
声をしっかり届けましょう。

勉強以外の
コミュニケーションを

▲ 入院や自宅療養中は、人との交流が少なくなりがち
です。普段の生活ややってみたいことなど、雑談を
する時間も大切です。

**その子に合った
学習時間の設定**

▲ 対面の学習支援より日時を自由に設定しやすい
ので、お子さんのやる気や体調・モチベーション
などに合わせた勉強時間を確保できます。

**教材やノートを
共有する工夫をしよう**

▲ その日使いたい教材があるときは、
写真を提供してもらおうと進めやすいです。

**解説はメモを
見せながら**

▲ 解説するときは、手元のノートに
書きながら伝えると◎。
イメージは授業の黒板！

お問い合わせ
認定NPO法人ラ・ファミリエ
〒791-8013 愛媛県松山市萱町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL/FAX: 089-916-6035
E-mail: lafamille@cc-sodan.jp

facebook
QRコード

地域子どものくらし
保健室 HP
QRコード

◀リーフレット(裏)

- このリーフレットを、学習支援ボランティア研修会にて紹介しました。

編集後記

これまでの研修会では ICT 機器の活用の力を十分に高めることが課題となっていました。今年度は実際に遠隔学習支援を行った学生を中心に、「こうすればできる」という実感をもって学びを深めていただけたと思います。対面、遠隔に関わらず、ICT 機器もその他の教材も活用して、子どもたちの「なるほど!」「わかった」「もっと学びたい」が聞こえる学習支援を目指していきたいです。

愛媛大学大学院教育学研究科 教授、認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事
榎木 暢子

コロナ禍において、ICT を活用しながらどう子どもたちと向き合うか? どうやったら伝わるのだろうか? 試行錯誤しながら学習支援を行った1年でした。

学習だけでなく、様々な話をするということの大切さをボランティアさんたちにどう伝えるか? 私たちスタッフも ICT をフル活用しながらボランティアさん・子どもたちに寄り添い支援を行いました。こんな世の中だけど、学習支援を通して、ひとりじゃないよということをしっかり伝えていくことの大切さを今後も努力していきたいと思っています。ドコモ市民活動団体助成をいただき1年間活動できましたことを感謝申し上げます。

認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事、地域子どものくらし保健室 ディレクター
西 朋子

学習支援は、教科学習だけでなく、日常生活における社会的なスキルを身につける機会にもなるのでは、とこの1年で特に感じています。学習支援を始める時間を守ること、時間に遅れそう・お休みしたいときは そのことと理由を伝えること… ノートや参考書に向かっている時間だけでなく、その他のふとした瞬間にも学習の機会が散りばめられているな、と思います。経験不足により、人間関係や社会生活で困る病気の子どもたち・大人たちも少なくありません。学習支援の限られた時間の中でも、いろんな経験ができるよう、アンテナを張っておきたいです。

認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室 自立支援員
越智彩帆





2020年度ドコモ市民活動団体助成事業
「入院中や療養中の学習支援のためのICTを用いた支援者育成事業」報告書

発行日 2021年8月31日
発行者 認定NPO法人ラ・ファミリエ（〒790-0026 愛媛県松山市室町74-2）
企画・制作 認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室

問い合わせ先
認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室
〒790-0813 愛媛県松山市萱町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL/FAX：089-916-6035 E-mail：lafamille@cc-sodan.jp

この冊子は、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドの助成事業にて作製いたしました。
多大なご理解、ご協力をありがとうございます。
引き続き、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



ラ・ファミリエ
地域子どものくらし保健室